

霞が関のパパたち写真展

写真展「霞が関のパパたち写真展」開催に当たって

我が国では、女性に比べ男性の育児休業取得率がまだまだ低調です。男性の育児参画の促進は、男性自身のワークライフバランスの実現のみならず、女性活躍促進等の観点からも、極めて重要な課題と考えています。

そのため、昨年(2019年)12月、政府では「国家公務員の男性職員による育児に伴う休暇・休業の取得促進に関する方針」を策定しました。子を持つ全ての男性職員が1か月以上を目途に育児に伴う休暇・休業を取ることができるよう、まず国から率先して取り組んでいます。

先般、在日スウェーデン大使館主催の写真展「スウェーデンのパパたち」を訪問し、父親たちの育児に熱心な姿に感動を覚えました。しかし、そのスウェーデンでさえも、男性の育児が当たり前になるまでには30年ほどの年月を要したと伺いました。男性育休促進に取り組み始めたばかりの日本も、社会の価値観を変えていくには時間がかかると思います。

一方で、男性国家公務員を対象にしたアンケート調査では、育児休業を取得したいと考える男性職員は8割超に上り、もっと家庭生活に参画したいとの希望を抱いています。そこで、我が国でもロールモデルの姿を示し、取得をためらうパパたちの背中を押すことに意義があると考え、今回、各府省の協力を得て、育児休業等を取得した職員の皆さんがお子様と過ごす日常の一コマを御紹介し、その素晴らしさを皆様方と分かち合うこととした次第です。

こぼれる笑顔。どこかまだぎこちない家事と育児に向き合う姿。

作品に目を転じれば、どれも微笑ましい家族の姿ですが、我々の心に笑顔を届けてくれるものばかりです。

1か月の育児休業を取得した職員のご家族は、次のようにおっしゃっています。

「育休を取ると言ってくれて本当にうれしかった」

「家族で過ごした1か月はとても毎日楽しくて、産後の身体もとても楽になった」

育児に奮闘し、我が子に惜しみない愛情を注ぐ父親たちの姿を通して、男性の育児参画が当たり前になっていく。子供たちの成長をみんなで支える、そんな職場、社会でありたいと願っています。

令和2年7月

国家公務員制度担当大臣

武田 官人

